



第8回 APT (Asian Particle Technology Symposium) 2021 が大阪で開催される



シンポジウム会場のグランフロント大阪、会議室は地下2階

2021年10月11日(月)から14日(木)まで、グランフロント大阪にて、第8回 APT (Asian Particle Technology Symposium) 2021 が開催されました。この APT は、アジアでの粉体工学分野の発展とこの分野の研究者の交流を図るために、日本の粉体工学会が中心となって立ち上げられました。2000年12月に第1回がタイ国の首都バンコクで開催され、約3年に一度開催されていますが、今回初めて日本での開催となりました。本会の開催にあたり、ホソカワ粉体工学振興財団では令和2年度助成事業のシンポジウム等開催援助の対象として開催援助されました。

初日のオープニングでは、今回シンポジウムの実行委員長を務められた大阪府立大学工学域長綿野哲教授からの開会挨拶の中で、本シンポジウムの会場がコロナ禍のために直前に変更せざるを得なくなったことや、対面とオンラインを使ったハイブリッド会議となった状況について説明され、このような厳しい条件にも関わらず、国内外から300件以上の発表と400名以上の参加の申込みがあったことが伝えられました。シンポジウムは、大阪大学内藤牧男教授の Plenary Lecture から始まり、5つの会場を使って4日間、遅い日は6時過ぎまで講演と研究発表が行われ、オンラインも使って活発に質疑応答が行われました。



講演会風景、綿野実行委員長の開会挨拶

なお、本シンポジウムでは、ホソカワ粉体工学振興財団の設立30周年特定事業の一環として、40歳以下の若い研究者に対して“Young KONA Award”が設定され、2日目の約40件の研究発表が審査の対象となり、その中から6名の研究者の受賞が決定しました。本 Award につきましては、ホソカワ粉体工学振興財団の後援の元に、応募受付から審査、表彰まで一貫して本シンポジウムの組織委員会によって運営されました。そして、最終日の14日のクロージングの前に、会場のメインホールにて表彰式があり、細川悦男理事長からそれぞれの受賞者に贈呈状と副賞が手渡されました。

閉会挨拶では、綿野実行委員長から、今回のシンポジウムがハイブリッド形式での開催となり、海外からの対面での出席が困難であったものの、ほとんどの研究発表が予定通りに行われ、盛会となったことが報告されました。そして、次回は3年後にオーストラリアのブリスベンで開催することになったことが発表され、次回の実行委員長から開催にあたってのメッセージがオンラインで伝えられました。



Young KONA Award 表彰式、細川理事長(写真中央左)、綿野実行委員長(同中央右)と6人の受賞者